

コンプライアンス  
: compliance  
野畑証券研修

2018.02.21(水)

中部学院大学畠山久志

# コンプライアンスの意味

○ **コンプライアンス** : compliance

動詞comply「従う」の名詞形

○ 類似概念

インテグリティ: INTEGRITY 規範 完全性

○ 合成語

**complete** : 完全、完成する

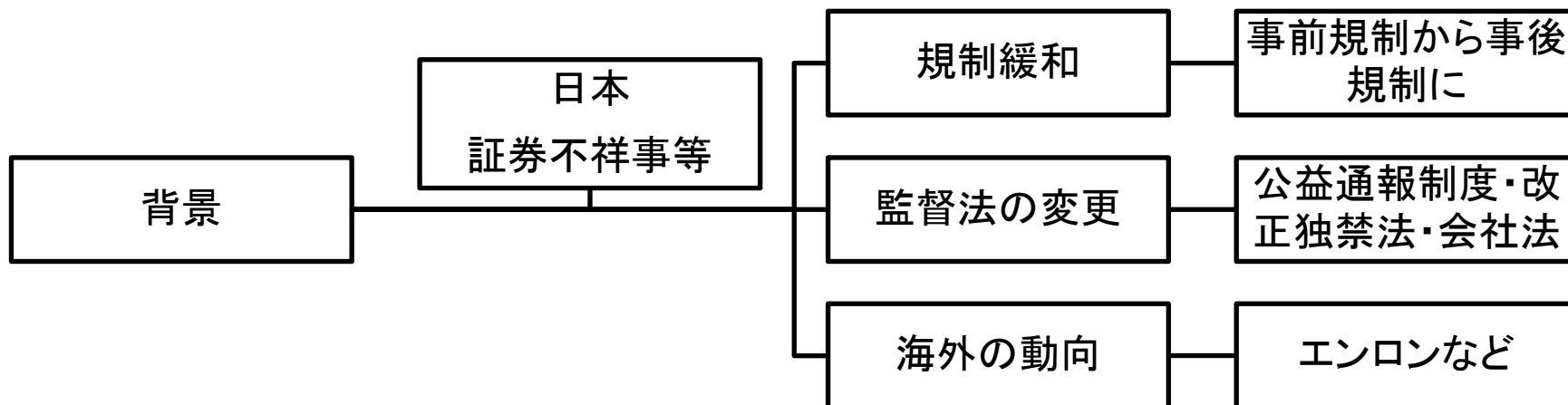
**+** **supply** : 提供、供給する

⇒ 遵守することによる完全性の獲得

# コンプライアンスの今日的な意味

1. 事業会社や金融機関などの組織が
2. 法令、企業倫理などの企業社会における  
様々な規範と**調和しながら**、
3. **適正かつ健全な**事業活動を行うために構築  
する
4. **組織としての**「仕組み」や「システム」を総称

# コンプライアンスの登場：背景



# 背景1. 損失補填事件

○大手4社を中心に証券会社が大口の法人顧客との間でその資産運用につき営業特金契約を事実上締結し、その結果顧客の口座に損失が生じた場合にその損失を会社の財産から補填したこと、及び当該口座に一定の利益が生じなかった場合にその差額を補填したことが明るみとなり、平成3年以後大きな波紋を呼んだ。

法改正や会社の経営破綻にもつながり、その影響は大きい。損失補填はバブル景気の好景気を前提とした行為であり、バブル崩壊から平成不況への転換期に、その実態が明らかとなった。

# 日本証券業協会の調査

平成3年3月期までの損失補填額（括弧内は件数、単位＝百万円）

証券会社	88年9月期～90年3月期	91年3月期	合計
野村證券	27,479(49)	435(6)※1	27,914(55)
大和証券	22,116(57)	3,275(20)	25,391(77)
日興證券	33,110(59)	23,475(38)	56,575(97)
山一證券	45,621(66)	16,367(14)	61,988(80)
大手4社合計	128,316(231)	43,552(78)	171,868(309)
準大手・中堅13社	43,696(386)	※2	43,696(386)
中小4社	874(92)	※2	874(92)
総計	172,886(709)	43,552(78)	216,438(787)

• 出典：読売新聞1991年9月25日朝刊

## 背景2. 大和銀行NY支店事件

○1983年大和銀行ニューヨーク支店の本社採用嘱託行員となった井口俊英(米国大学卒)は、変動金利債の取引で5万ドルの損害を出す。井口は、発覚を恐れ損失を取り戻そうと米国債の簿外取引を行うようになる。

○同支店のチェック体制は不備で井口自らが行っており、日本から派遣されてくる支店長は英語能力も劣る『飾り物』という状態であったため、実質的に支店ナンバー2として井口が支店業務を統括していた。

○井口の不正は12年も発覚せず、1995年には大和銀行の損失は、当初の2万倍以上に膨張し、最終的に11億ドルにも膨れ上がった(当時対円ドル為替レートで約1100億円)。

○ビッグプレイヤーになってしまった井口の取引手法は、ベテランのディーラーに読まれて、市場で捌ききれなくなり、完全に破綻してしまった。

○1995年7月、井口は遂に不正による巨額損失を、大和銀行上層部に突然手紙を送り告白。その知らせにより、同銀行上層部は準備もせず、日本の大蔵省へ報告した。

○アメリカ連邦準備制度理事会（FRB）への報告が、大蔵省からの報告から6週間後と後手に回り、アメリカ当局から『隠蔽』と判断される結果となった。

○このプロセスによりFRBが、大和銀行に厳しい処分を下すこととなった。1996年2月28日、大和銀行は司法取引に応じ16の罪状を認め、当時の米刑法犯の罰金としては、史上最高額といわれる3億4千万ドル（当時為替レートで約350億円）の罰金を払い、大和銀行はアメリカ合衆国から完全撤退という厳罰が下された。



# 類似の事件：ベアリングス銀行

○ベアリングス銀行 (Barings Bank) は1762年に創業されたイギリスの名門投資銀行(「女王陛下の銀行」)

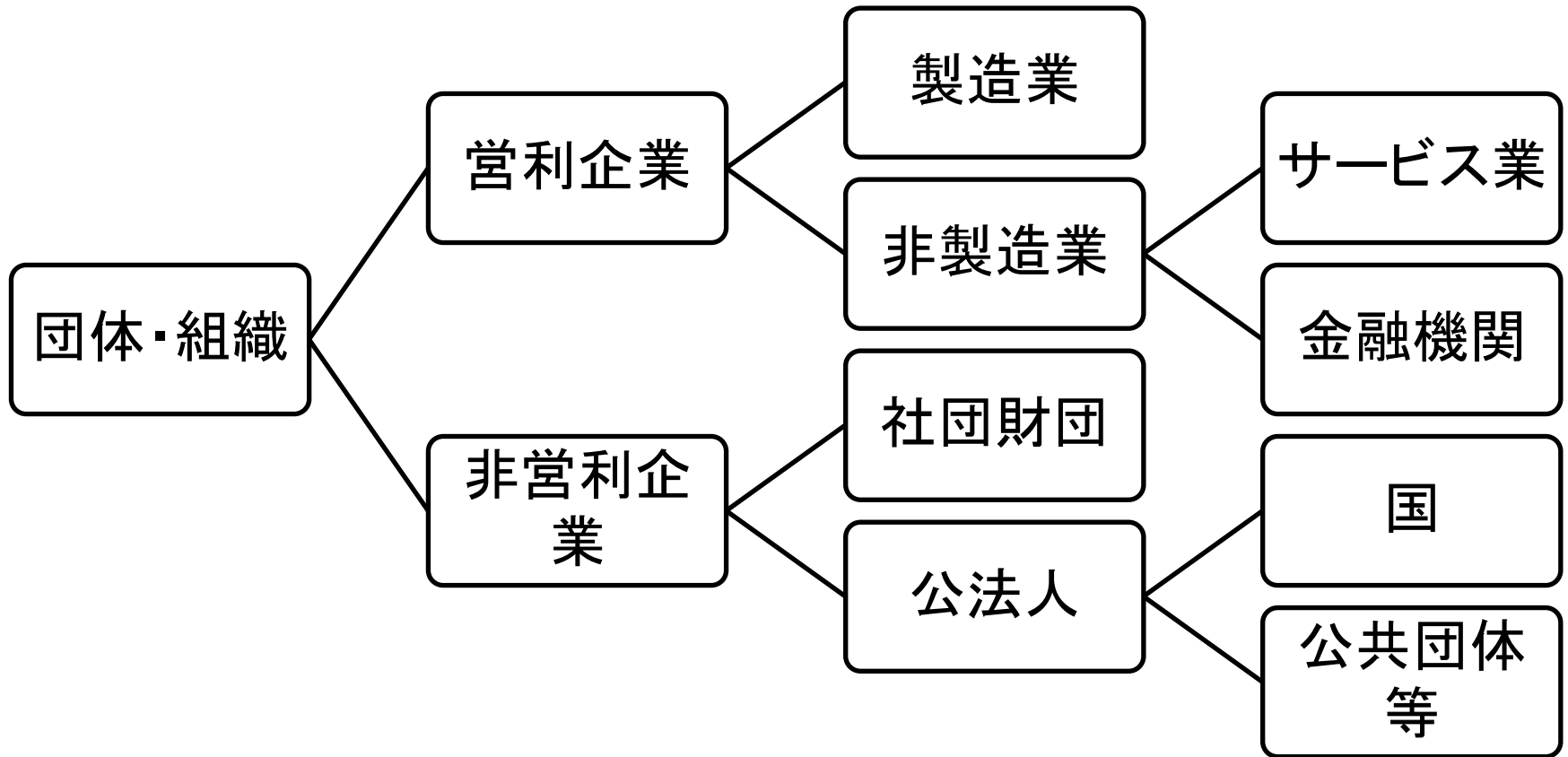
○シンガポール支店のニック・リーソン(1967-)が行っていたリーソンは行っていた日経225先物取引が、1995年に阪神・淡路大震災が起きて日経株価指数が急落し、損失が拡大

○その損失を秘密口座に隠蔽すると同時に、先物オプションを買い支えるための更なる膨大なポジションを取ったため、最終的に損失はベアリングス銀行の自己資本(750億円)を超過する約8.6億ポンド(約1,380億円)に到達。

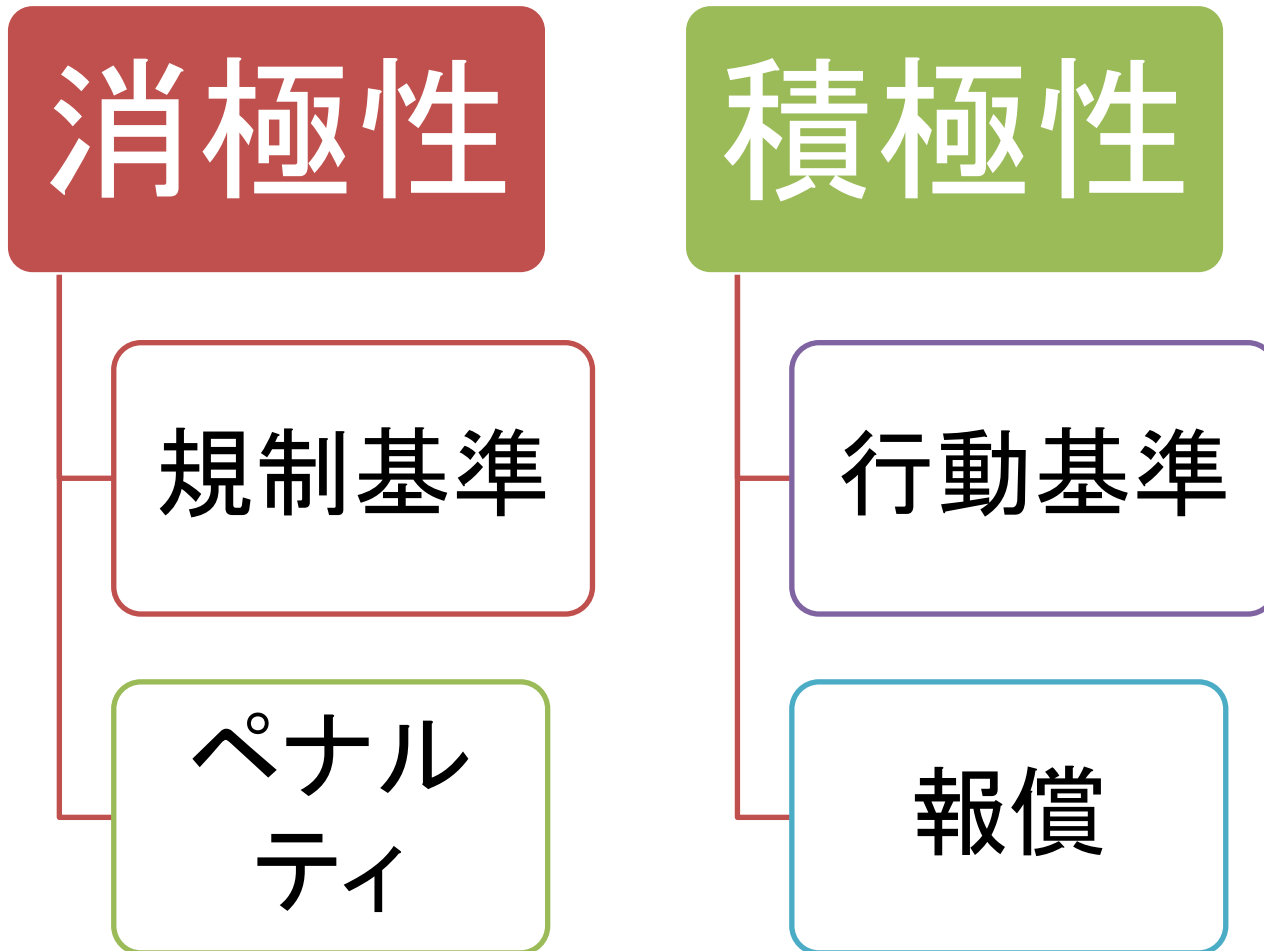
○ついに致命的打撃となり、銀行は破産(1995年)

オランダの金融グループINGが1ポンドで買収

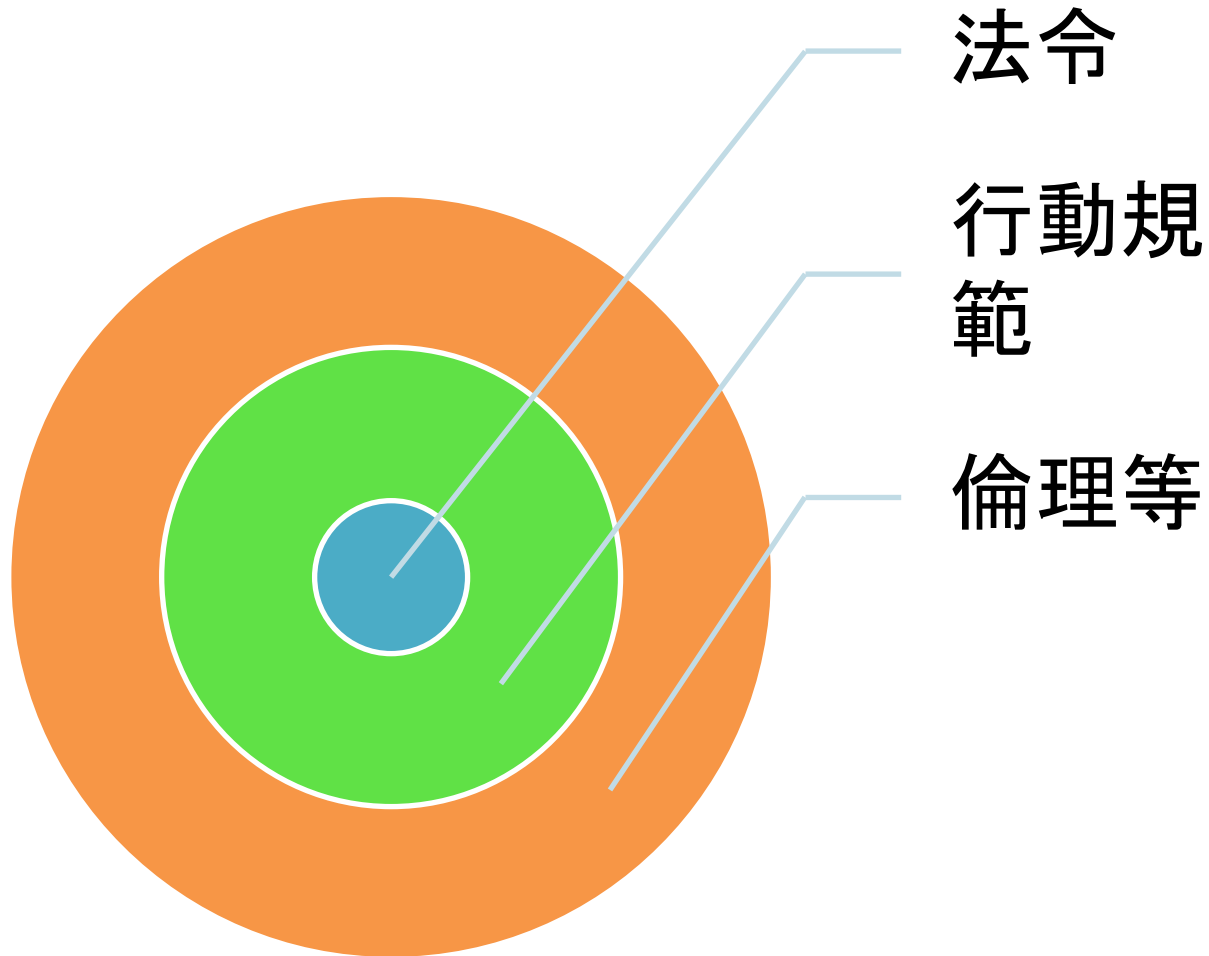
# コンプライアンスの主体



# コンプライアンス体制の二面性



# コンプライアンスの範囲



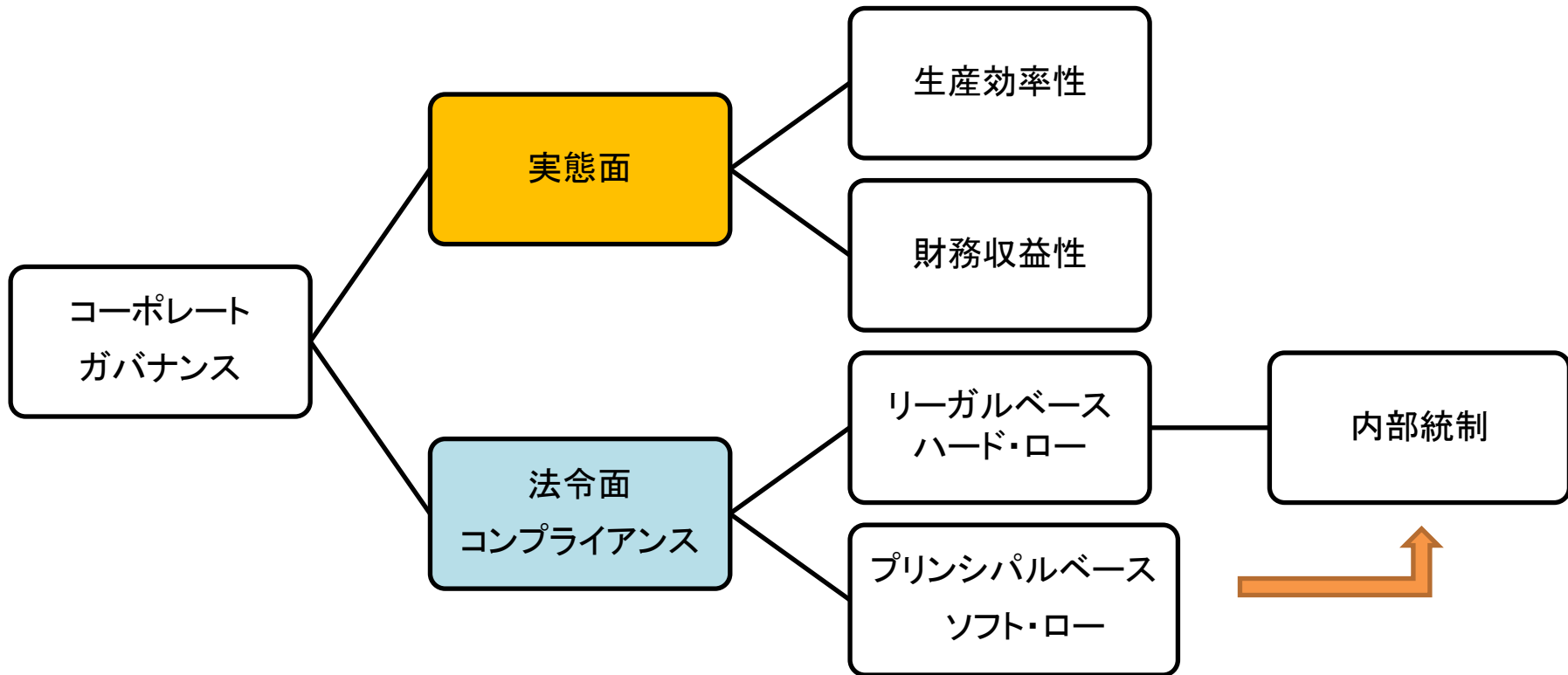
# 倫理

## 日経「企業行動憲章」

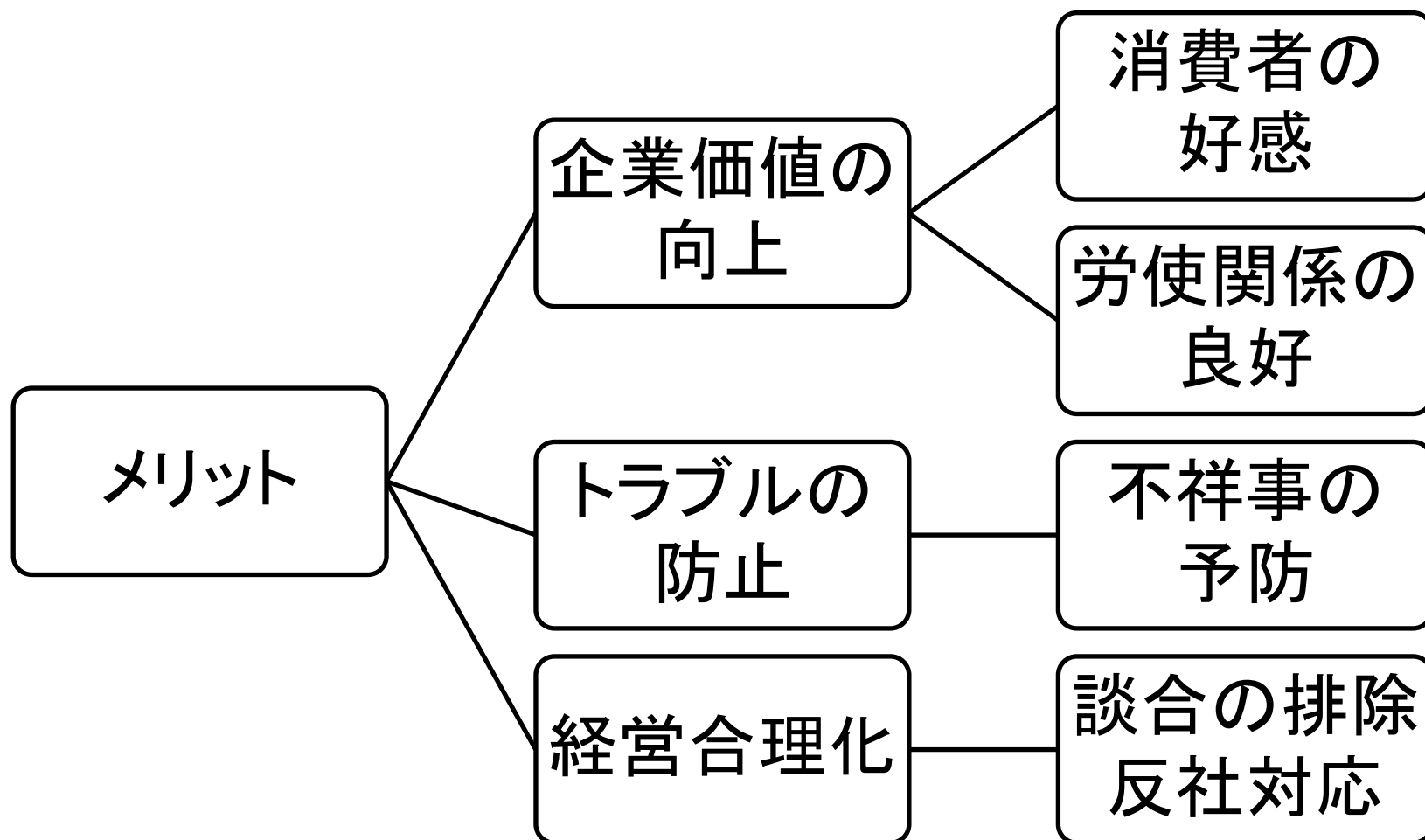
世界倫理	人類・地球の倫理、グローバリズム
社会倫理	社会規範、社会通念
市場倫理	取引社会の倫理、資本主義・自由主義経済の倫理
組織倫理	組織の持続的成長のための根本的な価値観・理念（ポリシー）
職業倫理	職業（プロフェッション）の倫理
個人倫理・道徳	個人の価値観

# コーポレートガバナンスとの関係

## Cooperate Governance: 企業統治



# コンプライアンス体制のメリット



# 企業不祥事件の類型1.

## 1. 独占禁止法・下請法違反

- ・カルテル、談合・不当廉売・下請けいじめ・不正会計
- ・不正受給

## 2. 不正会計

- ・脱税・粉飾決算、株価操作・違法配当・資金不正利用
- ・裏金捻出・補助金などの不正受給・債務不履行

## 3. 契約・対消費者への不正、不当行為

- ・製造物責任・リコール隠し・不当表示・耐震強度偽装
- ・保険金不払い・貸渋り、貸剥がし・個人的謝礼の受取り

## 4. 著作権・特許権の侵害

- ・特許侵害・ソフトウェアの違法コピー・写真や文章の無断利用

## 5. 反社会的行為

- ・贈収賄・反社会的勢力への利益供与・交際



## 2.

### 6. 雇用・労働問題

- ・サービス残業・過労死、メンタルヘルス不調・性別差別
- ・内部通報者への報復的人事、不当解雇・偽装請負

### 7. 業務命令・社内手続きの遵守希薄

- ・違法業務命令 ・仕事場での安全軽視

### 8. ハラスメント

- ・パワーハラスメント・モラルハラスメント・ジェンダーハラスメント

### 9. 情報マネジメントの誤用・不正

- ・個人情報漏洩、目的外使用・企業秘密の漏えい
- ・インサイダー取引不正取得・電子メール、SNS利用トラブル

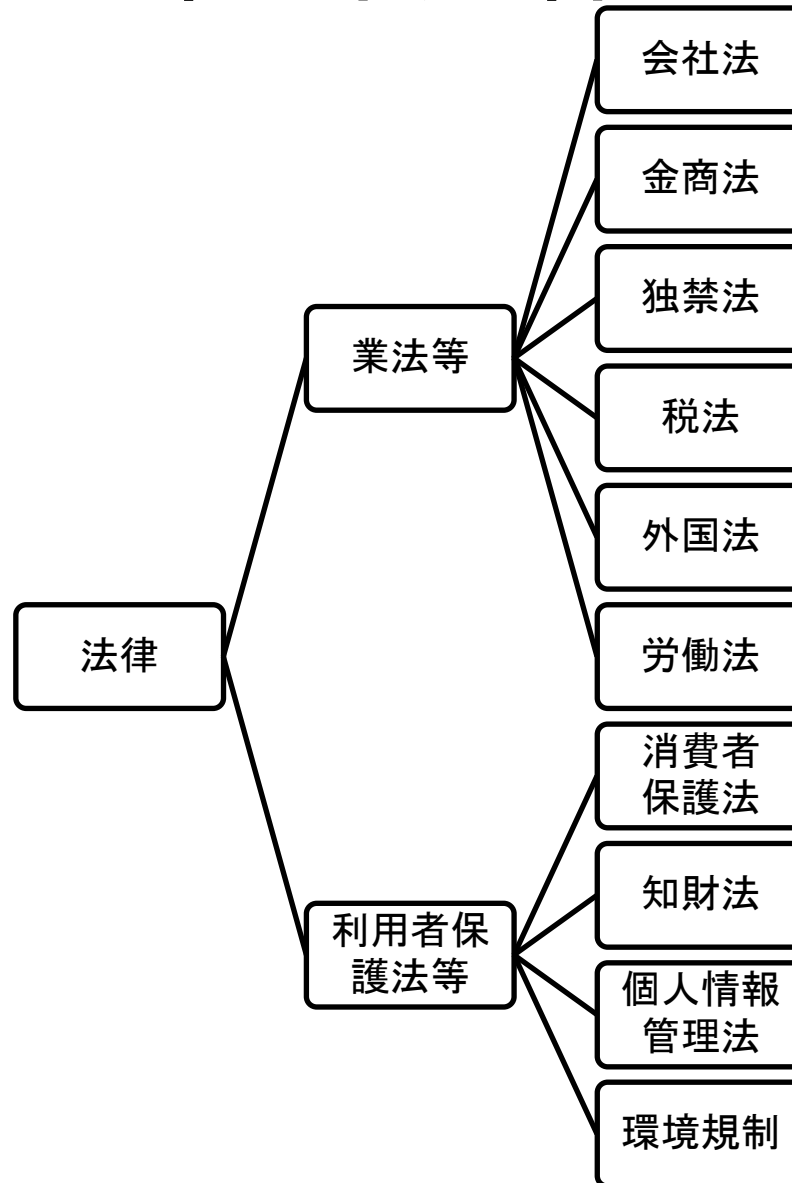
### 10. モラル・私生活上の問題

- ・業務上横領、私的流用・飲酒運転・賭博行為・違法薬物使用
- ・暴力

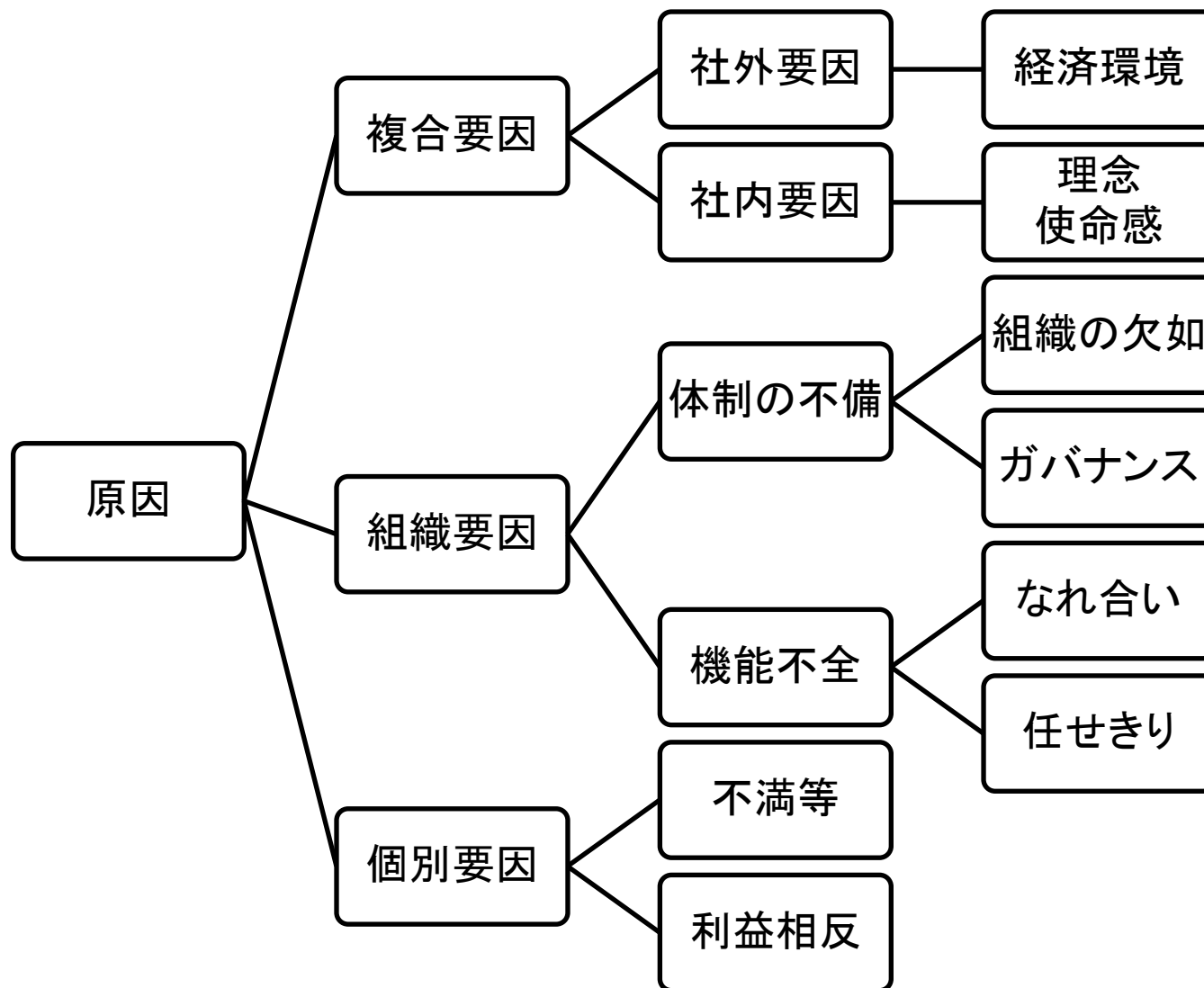
### 11. 環境への対応

- ・土壌汚染、水質汚染、大気汚染・廃棄物の不法投棄
- ・CO2排出量の不正申告

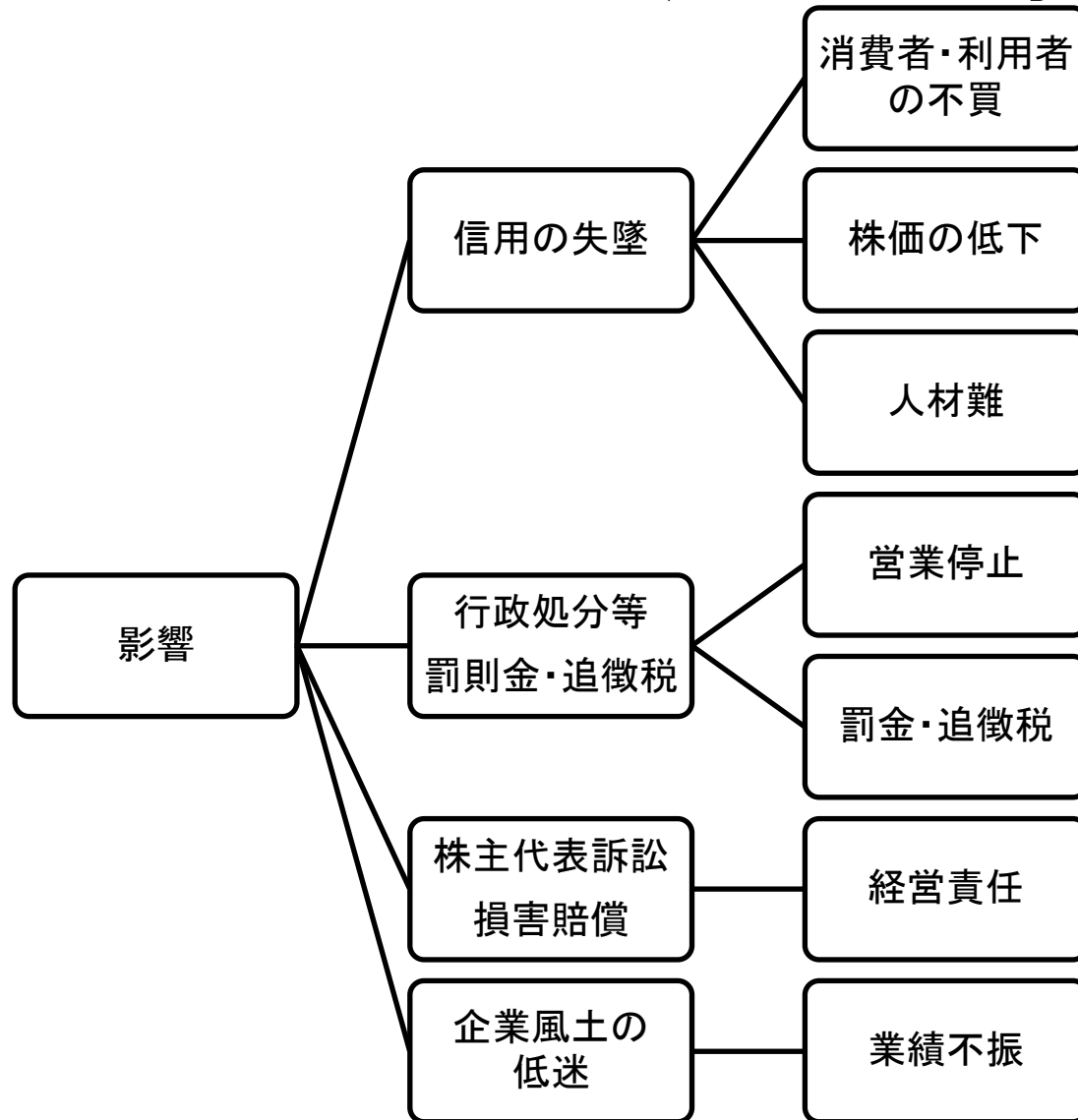
# 關係法律



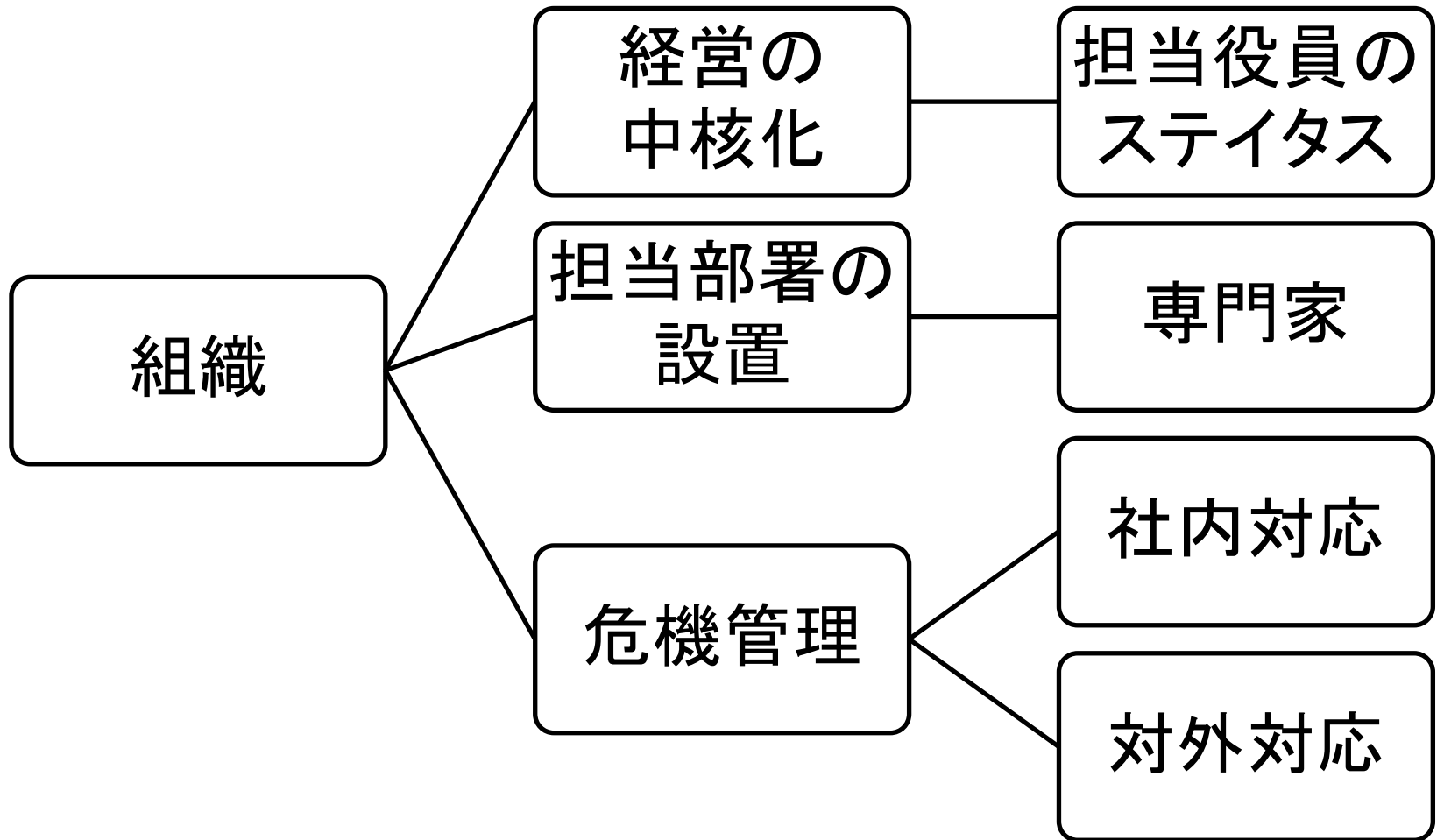
# コンプライアンス違反の原因



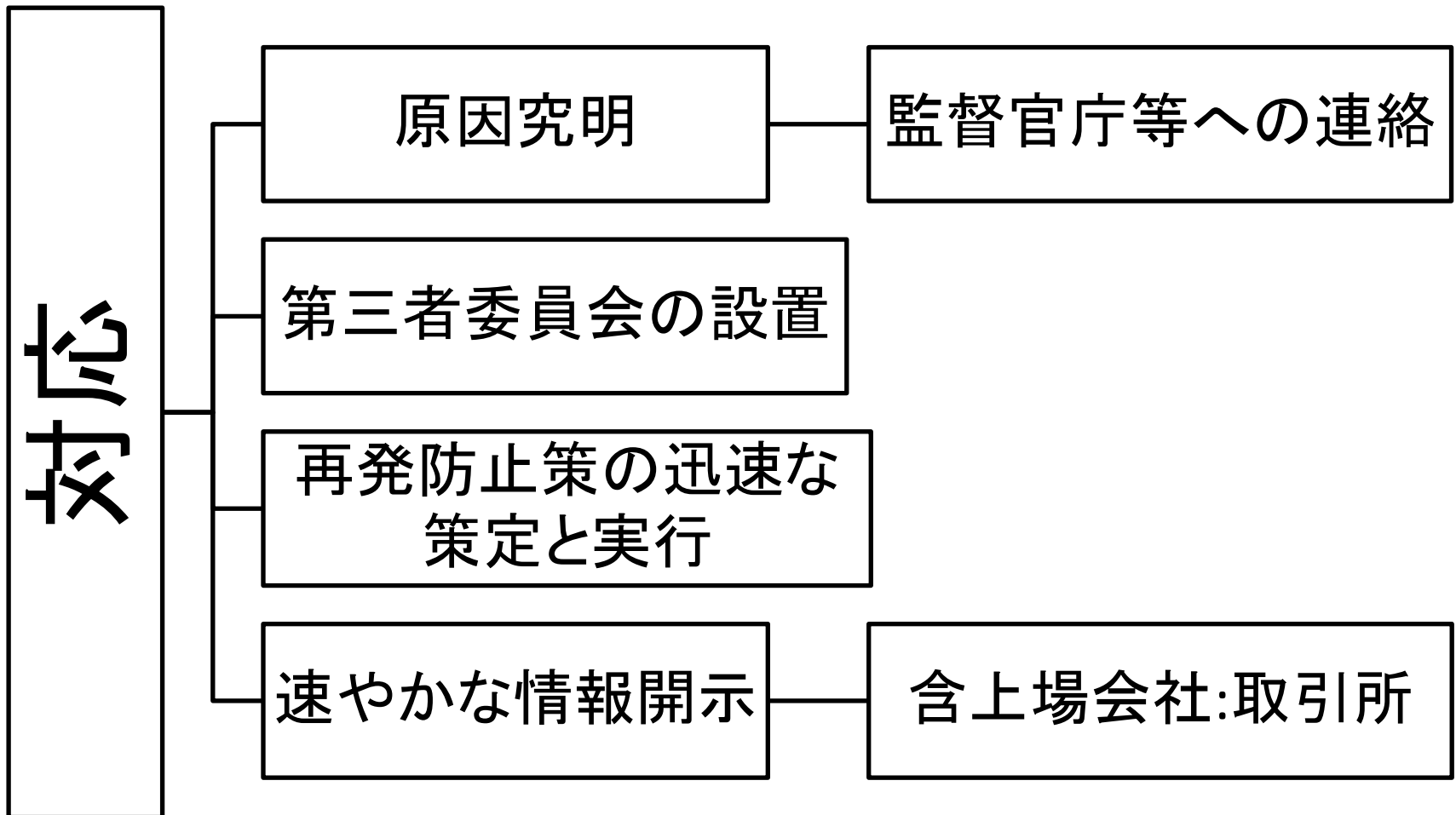
# コンプライアンス違反の影響



# 体制・組織作り



# 不祥事件が起こった場合の対応



# 金商法上の対応1.

## メインは、インサイダー取引

1. 役職員のインサイダー取引
2. 公開買付情報の漏洩と先回株式取得
3. 役職員の(利益目的による)不適切な  
自社株の売買とその報告の欠如
4. IOCO原則(誠実義務等)の遵守
5. 有価証券報告書等の虚偽報告

## 2.

# コンプライアンスプログラム必須事項

1. 金商法遵守の宣言(ガイドライン)
2. 役職員のための金商法遵守手引き(マニュアル)の作成・配布
3. 役職員に対する金商法遵守に係る教育と研修の実施
4. 金商法遵守状況のチェックとフィードバック  
PDCAの整備
5. 金商法等に関する照会・苦情の対応  
(FINMACの利活用)